# 人付き合いや情報収集を大切に 販売までを見据えた農業経営

## 植木経営　田主丸町　古賀 仁 さん（28歳）

### 企業への就職を経て就農

東京農業大学短期大学部を卒業後、企業への就職を経て、24歳で就農した古賀仁さん。約10ヘクタールの広い農地で米・麦・植木を両親と3人で生産しています。そのうち植木の生産は約4ヘクタール、約30種類の品種を生産しており、アカシアやユーカリなどの九州管内では少ない品種を取り入れるなど、幅広い生産を行っています。

### 人付き合いや情報収集を大切にする

仁さんは就農前、スポーツトレーナーの仕事に携わっていました。人を相手にする仕事を通して、人とのコミュニケーションについて多くの事を学びました。

フットワークを軽く、アンテナを張って、一喜一憂せず、物事を冷静に分析することを心がけている仁さん。人付き合いや情報収集を大切にし、ニーズを冷静に判断することで、先を見据えた生産を行っており、前職での経験が活かされています。

### 販売まで見据えた経営

「田主丸町は全国有数の植木の産地ゆえに、それだけ物が多い。生産したものを売ることが大事だ。」と話す仁さん。これまで父の博志さんが主に行ってきた業者への出荷に加え、インターネットによる直接販売を取り入れています。

「作ることが面白いだけでは趣味の世界。販売を見越して、売れるからこそ面白い。今後は、需要のある植木の品種を詳しく分析し、より現実的な生産計画を立てたい。」と語る仁さん。生産面はもちろんのこと、顧客との関係づくりを大切に、販売までを見据えた農業経営を行っています。